



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI (03) 3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2021年10月号

NO 541

わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。
「あなたのうちに平和があるように。」

詩編 122編8節

わたしたちの役目は何？

大野 貞次

やっと少し晴れ間が見えてきた感じがします。新型コロナの感染拡大の中、10月1日緊急事態宣言が解除され、世の中の活動が活発に動き始めるのではないかと期待されます。私たちのクラブ活動も徐々に広げてゆくことが出来るのではないかと考えるのですが、いかがでしょうね。

今月の強調項目は EMC/E ですね。みなさまもご存じのようにロースターのワイズ用語によりますと、Eはクラブ拡張(新クラブ設立)の意味。そしてワイズメン運動の拡大強化を図る、絶えざる課題として努力を続ける必要がある、とされています。さて私たちのクラブはそれを行う力があるのでしょうか。高齢化が進みつつある中1人1人の心の中には何とか協力しなければと考えていますが、なかなかできませんね。それよりもクラブの現状は会員を1人でも多く増やすこと。



左は国際ホテル学校校長・小畑貴裕さん
立ち合いで、奨学金贈呈式(九月例会)

そして少しでも若返ることが出来れば…でもこれも大きな課題です。皆様と話し合いながら務めてゆきたいと願うものです。

さてその方法はあるのでしょうか？ 幾度となく取り上げられた課題ですね。新型コロナ感染症の中、外に向かっては思うような活動が出来ていないのが現実ではあります。まずは良き卓話者の力を借りて例会を地道に開き、1人でも理解者を迎え入れること

ができればと考える次第です。そして少しでも若返り、さらに明るいクラブを形成できれば幸いですね。皆さん頑張りましょう。

窓の外は台風の接近による厚い黒い雲が立ち込めていいます。クラブの先行きを暗示しているようにも思えます。いやいや台風一過晴天が待ち受けています。

わがクラブに晴れが来るように祈ります。

クラブ役員

会長 鳥越 成代
副会長 吉田 明弘
書記 本川 悦子
会計 石井 元子
担当主事 横山 弥利

9月の記録		ニコニコ	4,700円
在籍者数	12人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	—円
出席者数	11人	コメント	0人
メンバー	0人	ビジター	1人
出席率	100%	ゲスト	2人
内Zoom参加	0人	出席者合計	15人
		WHO参加者	—人
		ファン ド残高	113,308円
		ホテ校ファン ド	7,200円
		ホテ校残高	7,200円

10月例会のご案内

今月の強調テーマ： EMC/E YES

今月の例会は久しぶりに卓話者をお迎えしての例会になります。さきに行われたオリンピック・パラピックの裏方の仕事について、こぼれ話などをうかがいます。開催が楽しみです。

日時：10月21日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並 4F集会室
杉並区天沼3-19-16

会費：1,500円

担当：C班（大野・本川・村野）

HAPPY BIRTHDAY

該当者なし

開会点鐘
いざたて
聖書朗読・祈祷
開会挨拶・紹介
会食

卓話

諸報告

YMCA 報告

ニコニコ

閉会点鐘

受付：大野 貞次
司会：本川 悦子
会長 鳥越 成代
一 同
村野 絢子
会 長

TOKYO 2020オリンピック大会
準備について ○○さん

鳥越成代会長
各担当者

一 同
鳥越成代会長

— 9月例会報告 —

例会のメインイベントは東京YMCA 国際ホテル学校に学ぶ私費留学生への奨学金贈呈式。毎年6月に行うことにしていたが、コロナ禍の影響で今年も昨年同様9月に行われた。

対象となる留学生には例年同様小畑貴裕校長に選んでいただき、今年は、コリタ パラレムさん（男性、スリランカ出身）とチャン キム ホアンさん（女性、ベトナム出身）のお二人に奨学金を贈呈した。式に先立ち小畑校長からお二人の詳しい紹介があり、またコロナ禍にあっての今年の学業についてのお話もしていただいた。式の後、食事を共にし（後で聞いたところによるとお二人とも夕食は済ましてきたとのこと）、その後答礼を兼ねてスピーチをしていただいた。スピーチは将来の抱負の他、スライドを交えてのこれまでの生活環境、子どもの頃のお話しなど、大変楽しいひと時を持つことができた。

非常事態下の例会なので、このところ例会時間は1時間45分。諸報告とニコニコタイムで時間一杯、お開きとなった。

出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、横山、吉田、＜メネ

ット＞神谷、＜ゲスト＞上記2名、＜ビジター＞小畑貴裕（神谷幸男）



— 9月事務会報告 —

日時：9月23日（木）

17:00-18:45

会場：ウエルファーム杉並 4F

出席者：石井、大野、河原崎、篠原、鳥越、吉田

＜報告事項＞

①9月会計報告を承認した。国際ホテル学校留学生の奨学金は、コロナ禍のため、献金機会が減り支給額に不足をきたしたため、本会計から不足分を補填した。

②10月16日（土）に予定される

卓話者紹介

○○さん

1972年生まれ、愛知県出身、練馬区在住。一般企業を経て、東京都入都。2018年からオリンピック・パラリンピック準備局で車両基地などの輸送施設整備や会場周辺の交通対策を担当しました。今回は、東京2020大会の輸送の取組状況を説明すると共に、大会準備や大会時に経験した裏話などをお話ししたいと思います。

あずさ部部大会には各自がZoom参加する。現時点の参加者は、神谷、篠原、高嶋、鳥越、本川、吉田。③9月例会は、上記留学生の奨学金贈呈式がメインの例会となった。会はまとまっていて分かりやすく雰囲気もよかったと、事務会で高評価であった。会食付きであることが徹底しなかったこと、ワイズソングの歌詞を用意しなかったことが反省点であった。

＜協議事項＞

①11月例会もリアル例会を予定する。卓話者は未定。

②鳥越会長から、魅力的な卓話者の紹介があった。了解し、具体的に進めてもらうことにした。

（書記代行・吉田明弘）

☆☆☆インタビュー☆☆☆
村野 繁さんに聴く
 東京世田谷クラブ
 * * *



—繁さんと初めて会ったのは、敗戦の翌年、小学校3年の秋。学会の劇の練習の時だった。

「覚えているよ。劇をしたことは。クラスは違っていたんだね」
 —繁くんはセリフの無い準主役。ボクは村人次郎兵衛、太郎兵衛が、「おかしいな」と言うと、それを復唱するだけ。繁さんは、いろいろと天与の才能がある。絵はお母さんが日本画家、運動は大学では「鉄棒の小野喬」と同じ体操部、音楽は今でもコーラスをやっている。残りの科目は暗記すればいいんだから、高校までは楽だったんじゃないの。

「小野喬さんは、五輪を目指して練習を続けるために私の大学に学士入学して体操部に所属していたんだけど、私は高校時代に遊び半分に鉄棒にぶら下がっていただけだったから」

—中学から教会で一緒。以来、月に5回ぐらいは会ってきた。

「でも二人だけで酒やお茶を飲んだりしたことはなかったな。いつも仲間がいた」

—何年か前に小学校の同期会で繁さんの高校の同級生に会ったら、「村野は変わり者だ」と言うので、どうしてと聞いたら、「アイツは東大を受けなかった」って。そういえば、あの頃アイススケートの靴持って歩いてたね。

「中学校の時はそれなりの成績だったけど、高校生になったら中の下の成績にしかならなかった。

アイススケートに熱中した。大学は、工学部電気工学に進んだ」
 —1960年に電機会社に就職。

「私には、その頃、続々と創業された意欲的な中企業の会社が合っていると思っていた。4年生の時、選択科目の工場実習には将来参考になればと大会社を選んだ。最終日に会社の人から、就職はと聞かれ、まだだと答えたら、ぜひ当社にと頼まれた。技術系は採用難の時代だったんだね。家電部門を選んで、名古屋工場に配属された。名古屋の教会では、学生部の面倒を見ている絢子に出会いました。1964年9月15日に東京転勤。10月1日に東京・大阪間の新幹線が開通するので乗りたくて、赴任を遅らせて欲しいと頼んだけどダメだった。その後、東京から絢子に交際を呼びかけ、デートは中間地点の静岡でした。そして1966年4月に結婚」

—東京に移ってすぐに東京山手クラブに入会したんだ。

「そう。名古屋でワイズメンズクラブのことを知って、教会の長老の福尾昇一さんが東京山手クラブに所属していたので、誘われました。そして東京目黒クラブをつくることになり、1965年に君を誘いました」

—これには感謝していますよ。村野ファミリーは、繁さん・絢子さんの最高傑作だと思うけど。絢子さんには2015年5月号にインタビューに登場してもらっているの、読者には合わせて読んでもらいましょう。お孫さんは今、何人。

「11人いるよ」

—おじいちゃんとして小学校の入学祝のランドセル代だけでも大変だったね。みんなYMCAキャンプに参加させたんだって」

「そう。希望した子には費用を出した」

—仕事は住宅産業部門に変わった時期があったね。

「入社以来家電部門だったけど、台所部門が出来て移りました。

シンク台、吊戸棚、調理台も売りました。キッチンコーディネーターの資格も取りました。日本では昔から流し台と言うくらい、流し水を使っています。欧米では溜め水で、漬け洗いです。この違いは米国に移住した日本人がホームパーティーの後、現地の人が片付けを手伝ってくれる時の作業で驚いていました。また吊戸棚等に収納してあるものにも、日本では食料品が割と多いのですが、欧米ではほとんど食器類です。訪問した家では必ず台所の扉を開けて見せてもらいました。面白いです」

「国が米国に対して思いやり予算をとったことがあって、沖縄の米軍基地の住宅の台所改装の仕事もしました。木製台所用品を台湾の木工所に発注したので、3年の間何回も台湾に行き来しました」
 —ワイズ歴60年。これまでで達成感があったことは。

「BF国際事業主任をやったり、BF代表で夫婦でカナダ中部地域のクラブ訪問したのは思い出だね」

—『お年玉記念切手シート』を日本区で集める提案をしたね。

「そうか。あれは区のCS事業となったね。アジア地域のフィラテリストだった福尾昇一さんのアドバイスがあって提案したのだけど、BFの使用済み切手集めと違って手間もかからない短期間勝負で、金額が張るから、すぐに広まったね。1人で500シート集める人が何人も出たり、1人当たり15枚を目標にしたり、個人が目立ち輝く時代だったね」

—繁さんがワイズ、YMCA以外で続けている仕事は。

「NPO法人の国際文化青年交換連盟日本委員会理事長、高麗博物館の理事をしています」

—最後に、座右の銘とか。

『ケセラセラ』です。人生なるようにしかありません」

—有難うございました。そのうち二人で飲みましょう。(吉田明弘)

私の大切な人

村野絢子

長崎の修道士—中編

私（注・小崎党明修道士）は長崎被爆後 2 か月・10月に「聖母の騎士」を訪ねた。母が3年前からルルドに体の弱い私を連れて参詣するのを知っていたポーランド人ゼノ修道士、他の修道士、院長のミロハナ神父が、喜んで孤独の少年の神学校入学を許可して下さった。

入学して5年後・卒業し同じ修練所に進んだ。このころ健康が崩れ始め、血尿の後、腎臓結核と分かり入院し摘出手術をした。長崎の26聖人の中に聖トマス小崎少年がいる。修道服の着衣式で頂いた修道名がトマス小崎だった。聖トマスの殉教に似た試練が自分に襲ってきた。膀胱の痛みと血尿・脊髄カリエスとなり、肋骨を切除後の傷から膿が出続けた。修道生活が続けられない私を、退会させずに、ミロハナ神父は、自ら創立した、山奥の養護施設の修道院に移してくれた。ミロハナ神父は毎日枕辺に来て微笑みかけた。「なぜ懸命に神に仕えたいのに我が道をこぼむのか」の悩みに、かつて同じ体験をした神

父は、コルベ神父の教えを語った。来るたびに「病者は修道院の宝」「病気はお恵みですよ」と繰り返した。その度に私は反発していた。だが不思議に私の乾いた心は神父の微笑で潤いを味わい慰められた。「苦しみこそ宝です」と神父は言った。死んだのち残るものは神のために捧げた苦しみではないか。病人とはただ体の一部が病んでいて、魂まで病人ではない。更に病状は悪化した時、愛の奇跡が起こった。養護施設の職員に看護婦シスター永松がいた、シスターにすべてを任せた。日に3度痛む腰をさすり、汚れた下着を洗い、優しい目で見つめる、彼女の細やかな配慮に母の手を感じた。そして佐世保に駐留する米軍の従軍司祭から特別に入手した新薬の白い薬と黄色の粉薬を飲ませた。この薬を飲み続けた途端、病状に奇跡が起こった。今まで薬を全く飲んでいなかった身体が、新薬を受け入れ、熱が引き血尿が止まり、徐々に快方に向かい、脊髄カリエスの膿も完全に止まり病気は嘘のように回復した。原爆で助かり、腎臓の摘出で助かり、まともや救われた。病気をして11年が経った。

YMCA Today

■国際ホテル専門学校の就職活動は、コロナ禍で各社の求人数が減り競争が激化している2年生の内定率は9月末で約65%となりました。卒業まであと半年間、最後までそれぞれに合った就職先にたどり着けるよう、スタッフ一同しっかりサポートしていきます。そして、1年生の就職活動も準備を始めています。オリンピック後、コロナ後を見据えて全国で大小様々なホテルが471施設開業を予定されています（週刊ホテルレストラン HOTERES2021.6.4引用）。

■今夏の宿泊を伴うキャンプは緊急事態宣言の発令を受けて中止。代わりに高尾の森わくわくビレッジや山手センターなど都内の施設を利用した5つのデイキャンプを企画し無事実施しました。夏期水泳教室や語学クラスも感染防止対策をしながら予定通り行い、合計1,328人の子どもたちが夏プログラムに参加しました。また昨年好評であった家族対象

の「秋の山中湖キャンプ」を、今年も10月9日～10日に山中湖センターで開催する予定です。

■経済的な理由でYMCAのプログラムに参加できない子どもたちの参加費を補助する「フレンドシップファンド」。今夏は計272,855円を支出し、9人の夏プログラム参加費を補助。コロナ禍により一層ニーズが高まり、今後にも広く寄付を募り、ファンドを積極的に活用予定です。

■ナイキジャパングループ合同会社より、スポーツウェア等1,209点（15,583,000円相当）を東京YMCAの学生（国際ホテル専門学校、社会体育・保育専門学校、にほんご学院）にご寄付いただきました。

■東京YMCAが長年支援を続けているバングラデシュYMCAが運営するNFPE（働く子どもたちの学校）は、コロナ禍の影響により2020年3月から休校中。子どもたちの学習とその家族の生活支援のため、国際協力募金から支援をすることとし、募金活動を開

始しました。

（担当主事 横山弥利）

編集後記

何を書けばよいのか？

貴方は夢を見ますか？

先日、読売新聞の記事に素敵な子どもの詩が寄せられていました。少し紹介をさせていただきます。これは北海道の江別市にある上江別幼稚園の先生からの投稿です。

*朝寝坊して登園してきた年長女兒が「いい夢いっぱい見たから寝坊しちゃった」かわいい…。

*砂場の水遊び、靴が濡れた年中女兒。保育者「靴、ベランダに置いたから、お日さまが乾かしてくれるよ」。女兒「お日さまって、優しい？」。保育者「優しいよ」。

ほのぼのとした記事ですね

私はろくな夢しか見ないので、いつか紹介したいと思いません。また皆様の夢を寄せてください。

投稿をしてくださった方に感謝いたします。（T.O）